北九州市立響灘ビオトープ 第1回指定管理者検討会 会議録

１　開催日時　　平成３０年１０月１９日（金）　10：00～11：30

２　場　　所　　北九州市響灘ビオトープ　ネイチャーセンター会議室

３　出 席 者　　（検討会構成員）
小島構成員、荒井構成員、野井構成員、
大内田構成員、堂野崎構成員
（事務局）
環境局環境監視部　　環境保全担当課長
環境局環境監視部環境監視課　自然共生係長
環境局環境監視部環境監視課　自然共生係職員

４　会議内容

（１）当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。

（２）検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明

（３）構成員の互選により、座長を選出

（４）応募団体より提案概要に関してプレゼンテーション

（５）応募団体との質疑応答

（構 成 員）　提案の対象範囲として、ビオトープ園内以外に地域全体も視野に入れている点、指定管理期間の５年間だけでなく、将来的なことも考慮している点は素晴らしいと思う。
　リーディングプロジェクトである、「緑の拠点強化と回廊ネットワーク」や生態系ユニバーサルサービスについて、効果的に実行出来ているのかなど判断するにあたり、どのような評価指標を考えているのか？

（応募団体）　保全生物の数量の推移をメインに考えている。もちろん調査をした上で把握に努めるが、指定管理者だけで行うのも限界があり、核となる保全団体に調査協力を求め、支援していきたいと考えている。
　また、ビオトープ内の生物状況をまとめた目録のようなものが現

在ない状況なので、今後の５年間で地道に調査活動を行ってデータベースの構築に努めたい。市内の保全活動にかかるネットワークと連携し、評価指標についてはアドバイザリー会議を活用するなど、適宜助言等受けていきたい。

（構 成 員）　人員配置については７人体制とあるが、就労時間を考慮すると、通常は５人でシフトを組んでいくと思われる。通常の管理に加え、イベントの開催や園外への出張、視察受け入れなどを考えると、提案の人数では少ないのではないか？

（応募団体）　現指定管理者にヒアリングした結果、小学校などの団体を受け入れた際は、３人のガイドで対応し、事務所受付や電話対応で１名配置している。視察受け入れ等についてはやはり調整が必要と思っており、すべての受け入れは難しいと考えている。JV ということもあり、３社での応援体制が可能だが、内容に応じて、外部講師や専門家の協力も仰ぐなど、臨機応変に対応していきたい。

（構 成 員）　ビオトープは自然環境学習拠点だが、そもそもわざわざ見に来てくれる人は、すでに自然に興味を持っている人で、啓発の必要性は少ないと思われる。もともと興味を持っていない人たちへのアプローチはどのように考えているのか？

（応募団体）　主に、ほかの団体との連携や協働を考えている。例えば、英会話を通していきものを説明したり、ビオトープで俳句を作ったり、自然をテーマにした創作劇を作ったりするなど、それぞれの趣味を通して、ビオトープを楽しむことが出来る仕掛けを考えていきたい。
　また、アドバイザリー会議などで情報を収集するなど、常にアンテナを張っていきたい。特に、若い人の呼び込みに力を入れたいと考えており、最近では「インスタ映え」などの言葉もあるように、見せ方も重要である。そういったことも意識しながら、全く違う興味の方を引き込みたい。

（構 成 員）　収支計画書の中で利用料金収入を見ると、入園者数が少なく、要求水準との整合性が確認できないが、要求水準を達成出来るのか。

（応募団体）　有料である一般の利用者数を計上している。子供に対しては、利用料金を無料に設定しており、収入としてはカウントできないが、要求水準は達成可能と考えている。

（構 成 員）　植生管理業務について、仕様書上では５年間の植生管理計画を提案することとなっているが、具体的な提案が行われていないように感じる。

（応募団体）　事業計画書の２５ページ・２６ページに概要のみ記載している。正式に指定管理者として決定し、体制が決まり次第、詳細含めて事業計画書の中に盛り込み、市と協議しながら実施していきたい。

（構 成 員）　外来種の対策について、仕様書ではボランティアとの連携があるが、提案書では盛り込まれていないように感じる。どのように取り組んでいくつもりか。

（応募団体）　季節ごとに実施するイベントに外来種駆除を盛り込み、市民の皆様に参加していただきたいと考えている。ブリジストンなど、すでに外来種駆除イベントに協力していただいている既存企業にも声かけする予定だが、楽しみながら参加していただく工夫が必要と考えている。参加してもらいやすい方法などは、企業やボランティ団などと協議しながら取り組んでいきたい。

（構 成 員）　利用者数の数値目標について、エコツアーを 4,500 人に設定しているが、５年間同じ数値になっている。少しずつ増やしていこうという目標設定は考えていないのか？

（応募団体）　「生物多様性の保全」が施設の設置目的にもなっている点を重視している。園外の団体と連携し、活動していくことも受益者を増やすことに繋がっていると考えている。
　利用者が増えることでの生物への影響の懸念があり、ビオトープ園内では保全の安定に努め、園外では受益者を増やすというのが大きな方針である。

（構 成 員）　公共施設である以上、収入アップも重要な要素と思う。環境保全団体等の無料で利用する機会が多い団体が利用の中心と想定される中で、収入アップするための一般客を取り込む工夫があまり見られないように感じる。一般利用者が利用しやすいよう、関係団体等とコラボレーション等してほしい。

（応募団体）　一般利用者の取り込みは課題と認識している。関係団体との連携し、少しでも取り込めるように頑張っていきたい。

（構 成 員）　外来種対策について、園内だけ対策しても、園外からの流入も考えられる。そのため、近隣との連携が重要と思うが、どのように考えているか。

（応募団体）　地元のまちづくり協議会とまず協議していきたいと考えている。ほかにも、緑の回廊植樹会との連携や、近隣の赤崎小や小石小などの教育機関における授業を実施など、子供から高齢者まで幅広く啓

発を行っていきたいと考えている。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

（６）構成員同士による意見交換

（構 成 員）　ガイドツアーの目標値について、目標人数を増やしていく必要あるのではないかと感じた。収益アップにつながるような内容が少ないのはマイナスと考える。

（構 成 員）　利用料金の設定には、施設の設置目的を加味する必要があると思われ、その捉え方により料金設定の考え方も変わってくる。広く啓発しようとするのであれば、提案の利用料金は理解出来る。

（構 成 員）　現場の状況もあり、提案書にはすべてを書けていないのではと感じる。現状を見込んだ現実的な提案となっている部分がある一方、ユニバーサルサービスのところでは、考え方自体は良いが、リップサービス的に見える部分があり、実現性としては難しいと感じた。

（構 成 員）　条例で定める額より安い料金設定について、利用者にとっては良いが、将来的には元の料金に戻すことを想定しており、受益者負担の観点では疑問符がつく。収入増に向けた取り組みを期待する。

（構 成 員）　継続的にやっていく上で、収入を増やすことは必要だが、提案の料金設定は、まずは利用者を増やすための判断と理解している。その後、将来的な値上げはほかの公共施設も実施予定であることからも、理解出来る。将来的な展望を見据えての提案のように感じる。

（構 成 員）　高齢者や障害者など個人利用者の配慮についての具体的な記載がなく、どのように対応するのかがイメージしにくい。また、災害時の危機管理体制等の記載がなく、市との連携面についても同様のため、市と連携した上でしっかり取り組んでもらいたい。

○事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

（７）検討会としての検討結果（総合的な所見）について

各審査項目でそれぞれ高い評価レベルを獲得しており、総合得点においても「８３点（地元優遇を加点すると８８点）」と優れており、指定管理者としてふさわしいという意見で一致した。